



シティプロモーションアワード 2025 金賞

若者が チャレンジ できるまち

～デジタルのまちづくり～



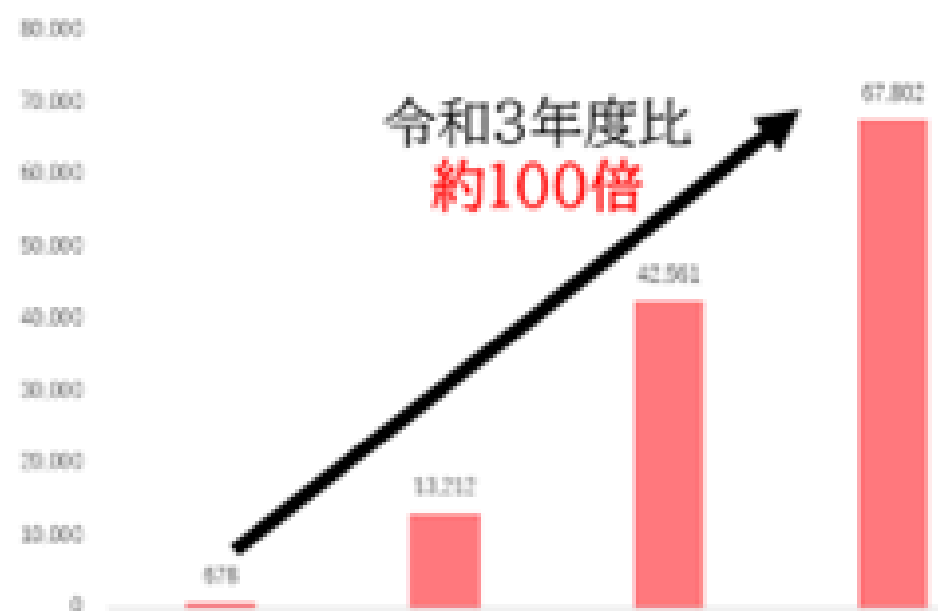
真岡市総合政策部秘書広報課 小池知恵子

課題 1：これまでの施策では移住定住につながっていない

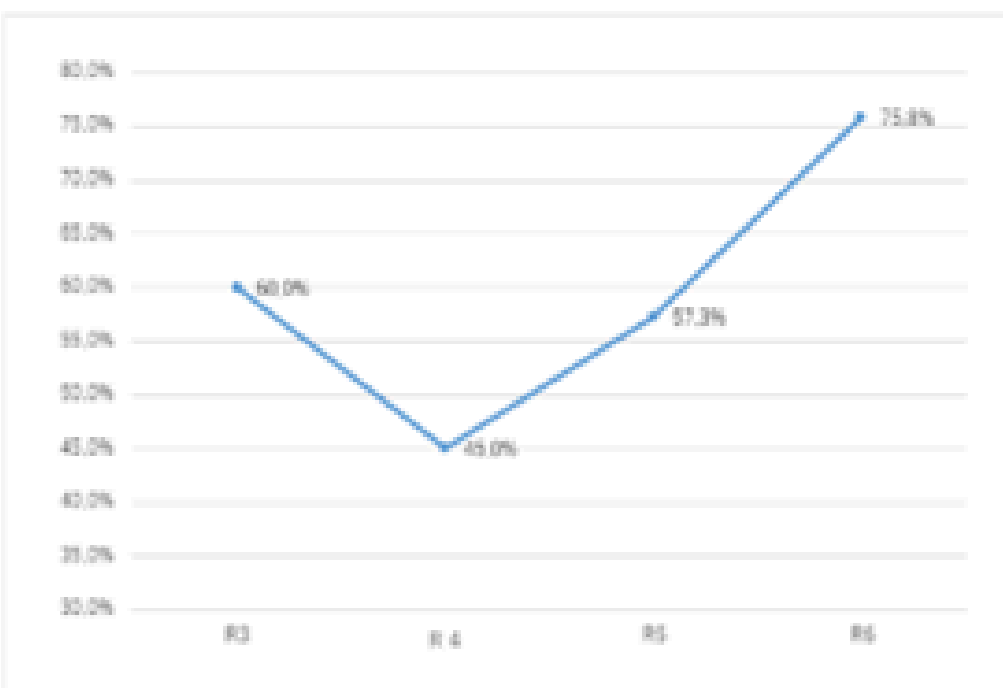


キャッチコピー「いちご王国栃木の首都もおか」による
いちごプロモーションを展開

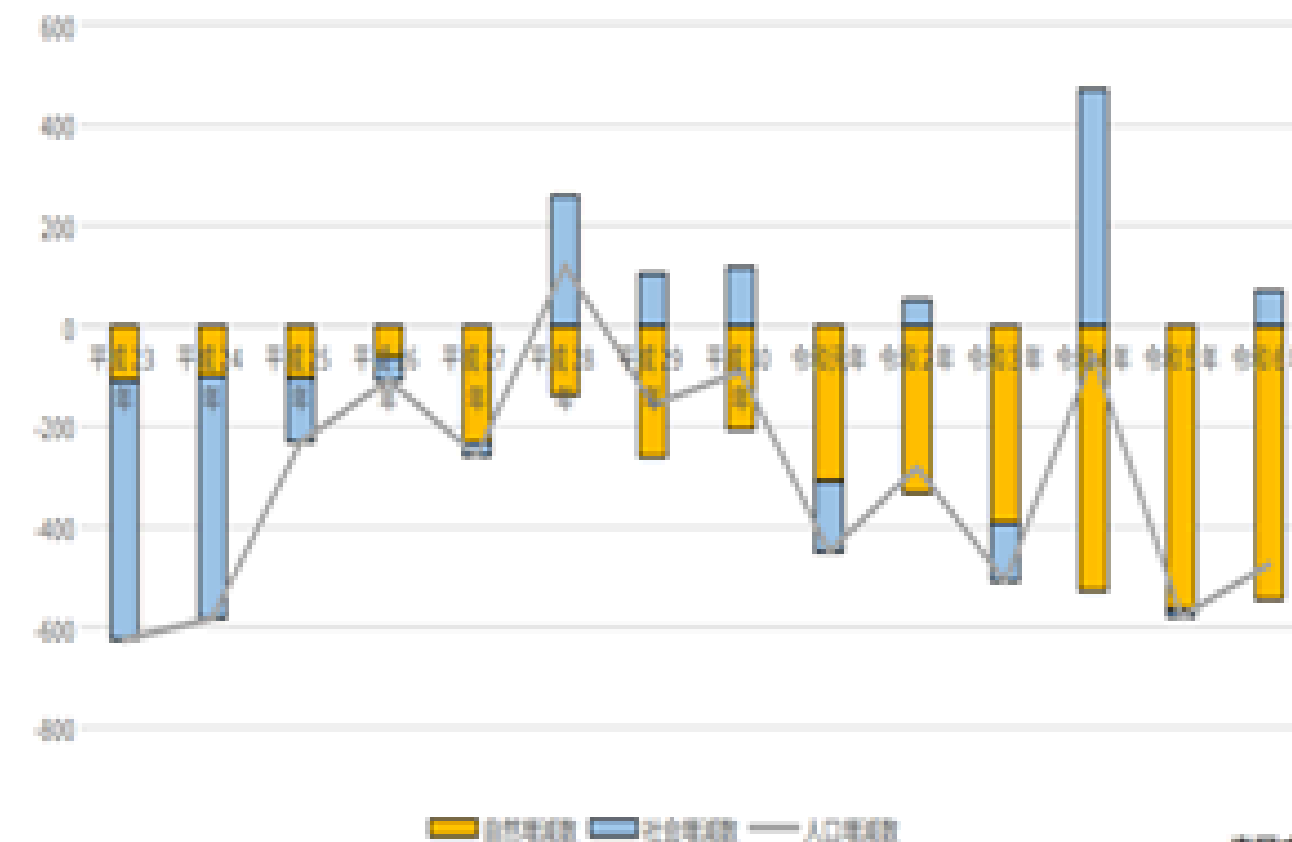
▼ふるさと納税いちご申込件数



▼市民が「いちごのまち」と思う割合



▼真岡市の自然増減・社会増減の推移

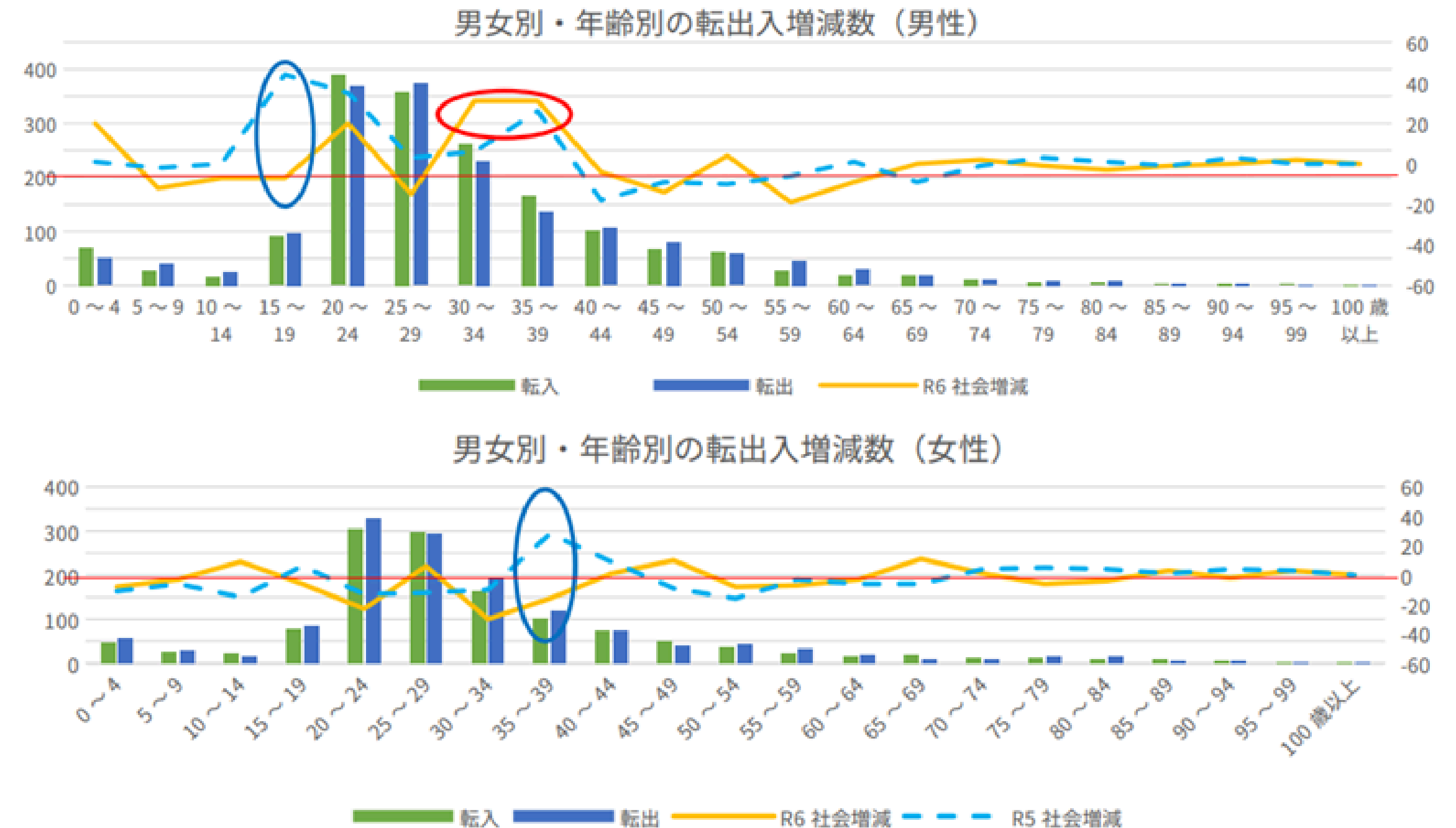


課題 2：若者の市外流出



進学等を機に
市外へ転出
卒業後に市内に
戻ってくる
若者が少ない

▼真岡市の男女別・年齢別の転出入増減数

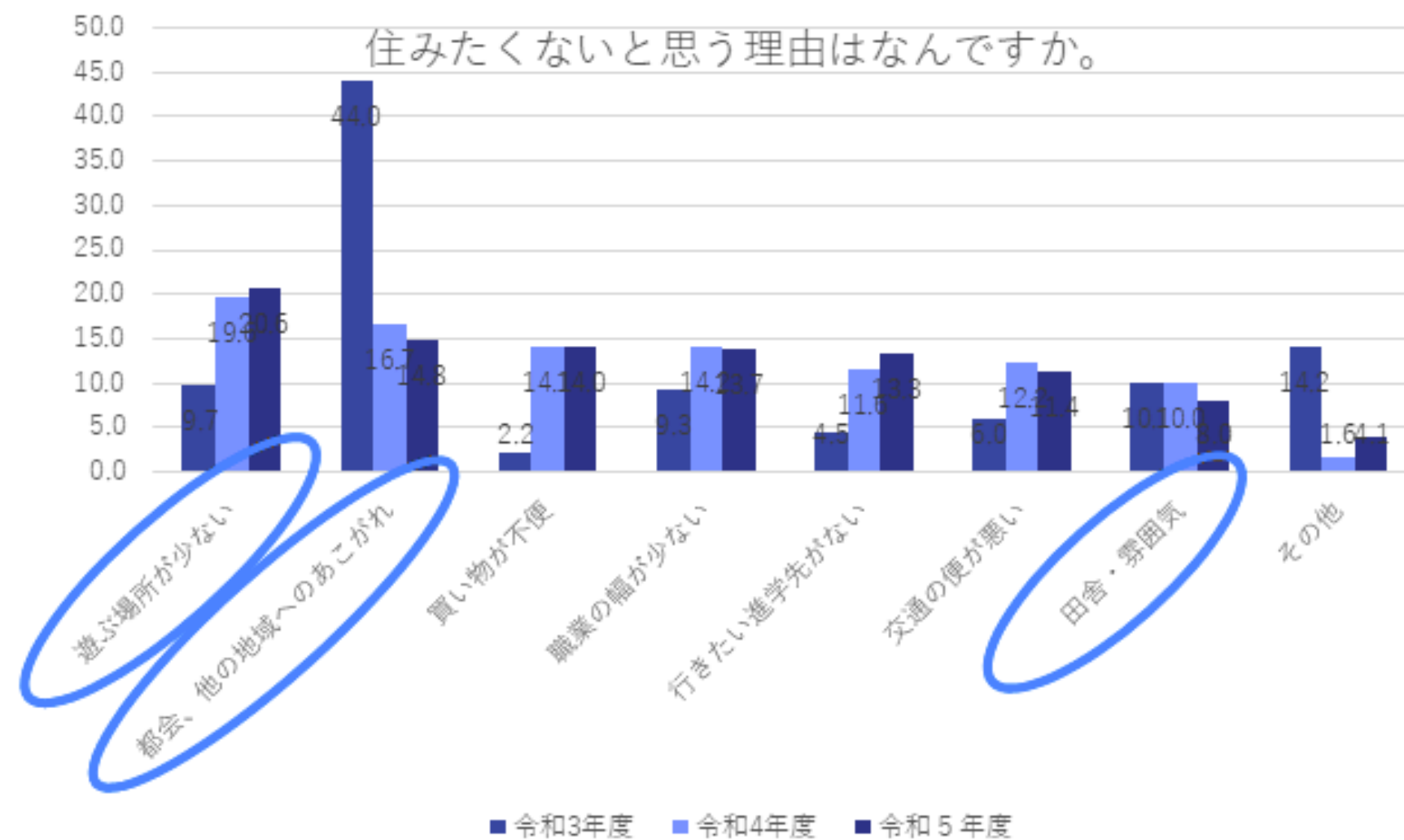
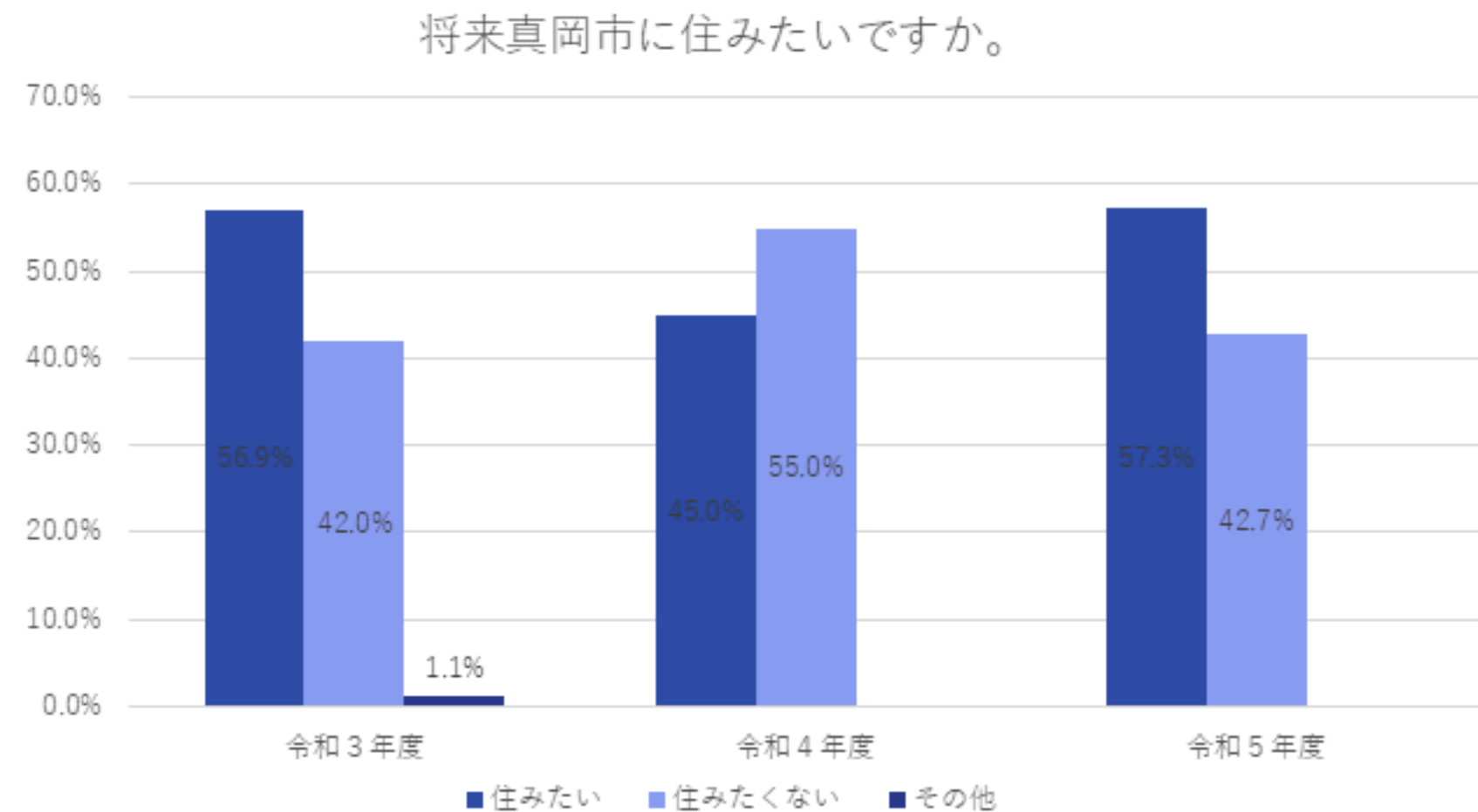


課題 3：若者の定住意欲及びシビックプライド醸成不足



デジタルによる魅力発信で改善は見られず・・・
若者は「将来、真岡市に住みたくない・・・」

▼市内全中学校の2年生を対象としたアンケート結果



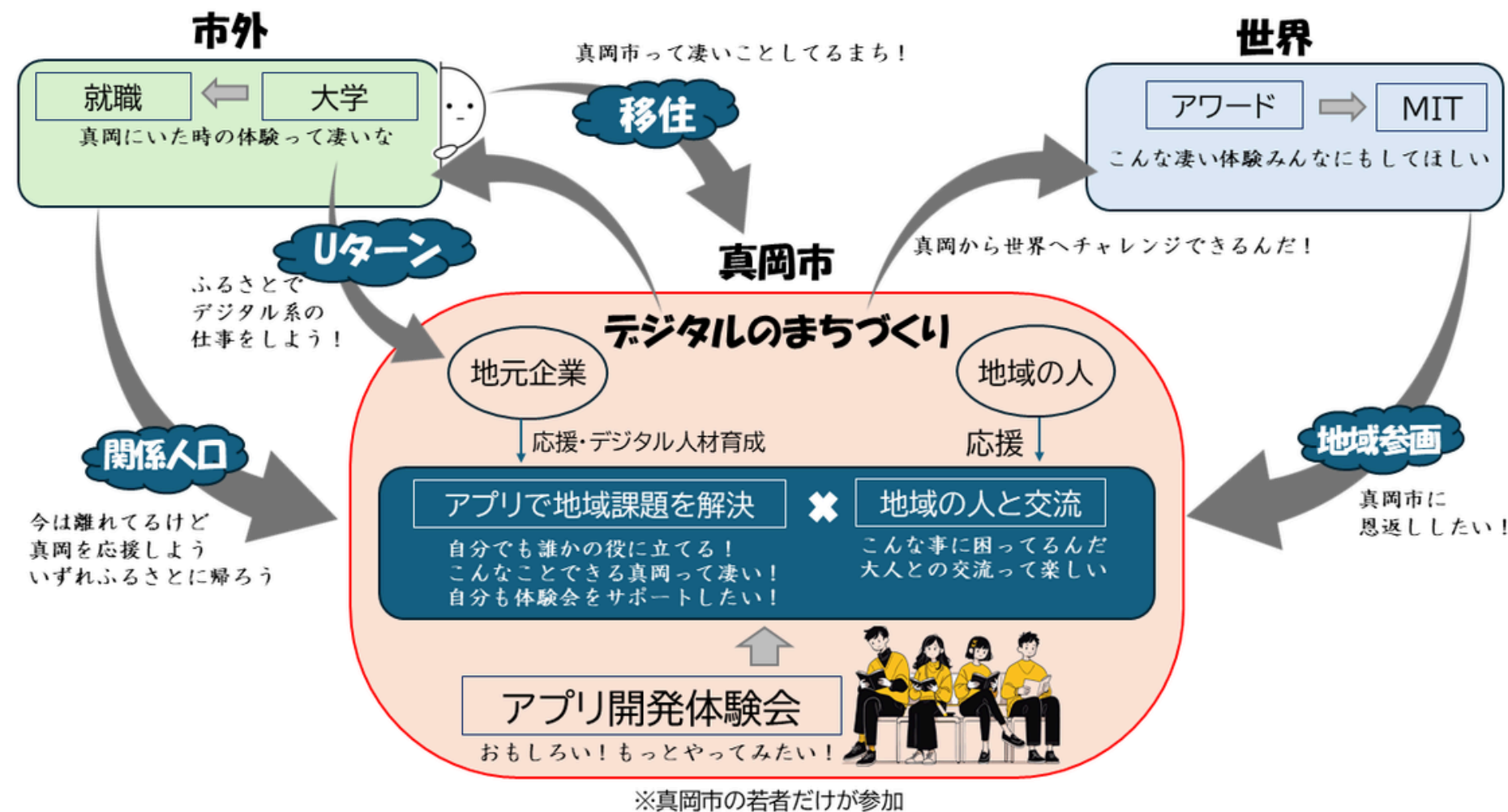
真岡市に住んでいるからできる体験＝特別な体験

デジタルのまちづくりの概要

若者がアプリ開発を通じて、地域課題解決に挑戦する機会を提供し、地域と交流・接点をもつことで、地域や人の魅力に触れる機会を創出する。



デジタルのまちづくりのロジックモデル



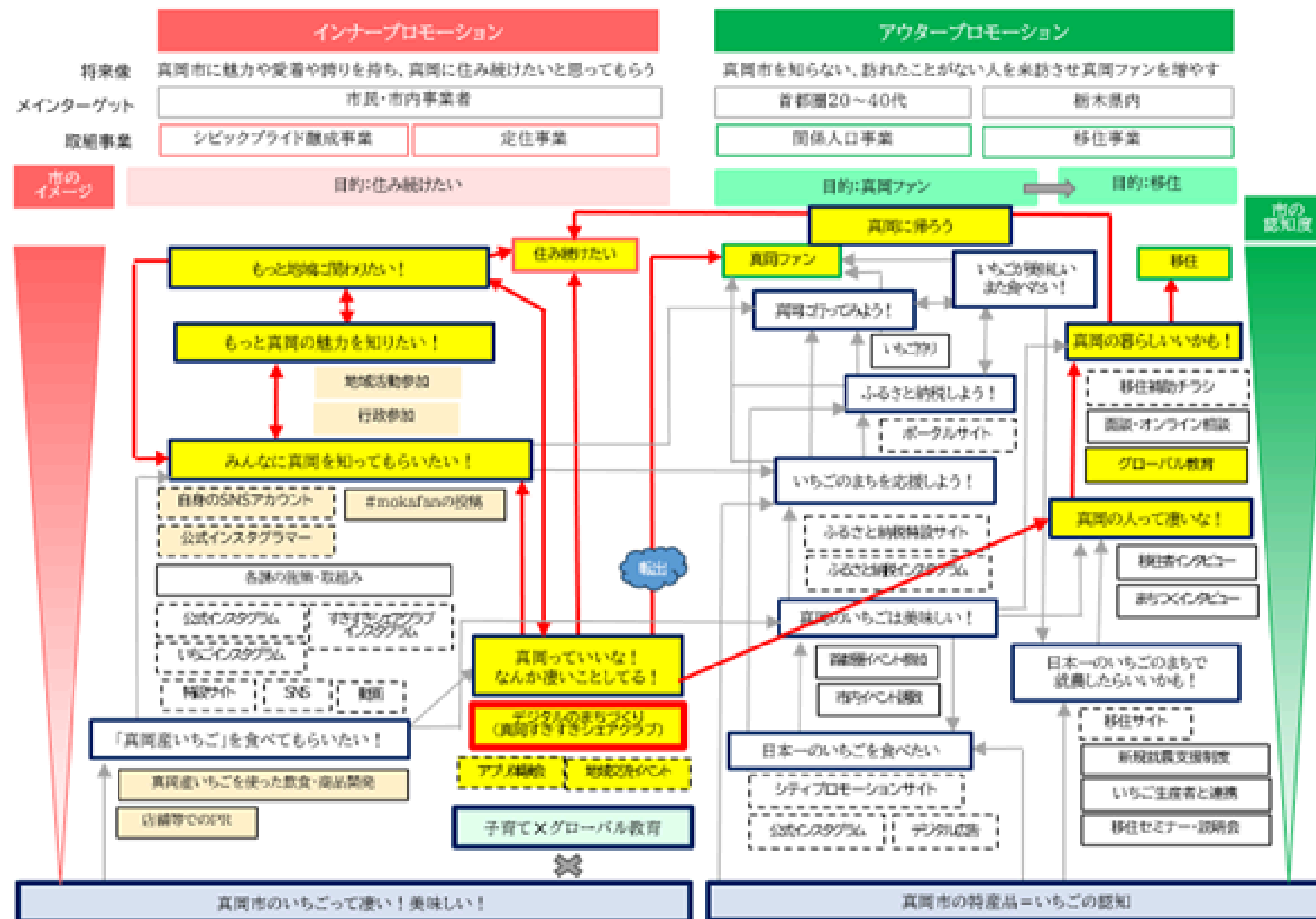
●短期的な態度変容

- ☐ 成功体験で「真岡っていいな」「自分でもできる！」
- ☐ 若者の活躍を知り、まちを誇りに感じる
- ☐ メディアによる外部評価

●長期的な態度変容

- ☐ 特別な体験を通じて、大人になっても郷土愛が定着
- ☐ 転出しても「真岡を応援したい」と関わりの継続
- ☐ 最終的に「真岡に帰ろう」Uターン

シティプロモーション全体の位置づけ



デジタルのまちづくり ①アプリ開発体験

- 年間を通じたアプリ開発の伴走
- 高校と連携した特別講座の実施
- 夏休みアプリ体験会



▼体験教室の様子



▼オリジナルアプリにチャレンジ！



▼特別講座の様子



デジタルのまちづくり ①アプリ開発体験

- 国内のアプリコンテストでグランプリ
- M I T でコミュニティ・インパクト賞受賞

各種メディアで取材

アプリ開発コンテストでグランプリ 宇都宮東高付属中の佐野さん（真岡）アメリカで発表へ

4/15/2024
真岡



グランプリを受賞した佐野さん

【真岡】高勢町の宇都宮東高付属中3年佐野帆那（さのはんな）さん（14）が2月に都内で開かれた10代対象のアプリ開発コンテスト「Japan Wagamama Awards（ジャパン・ワガママ・アウォーズ）」で最高賞のグランプリに輝き、7月に米国で開かれるマサチューセッツ工科大主催のサミットで発表する機会を手にした。佐野さんは「世界中から集まる人たちと交流できることにワクワクしてい

▼表彰式での審査員と佐野さん



TBS「THE TIME」全国！中高生ニュース 出演



デジタルのまちづくり ②アプリ開発報告会

- アプリ開発内容の報告会
イベント
メディア（ラジオ・テレビ）
- 地域住民協力による
アプリ実証実験



▼アプリの実証実験
ー地域住民の協力



いろんな意見を聞いて
アプリを
フラッシュアップ!!

▼グランプリ受賞報告会



▼MITでの活動報告会



デジタルのまちづくり 成果

グランプリを受賞した中学性のコメント

“ 人口8万人のまちから、世界をみることができ
自分の小さな行動でも、社会を変えられるとわかった ”

真岡市のために活動していきたい

地域全体が、真岡市からでも世界へチャレンジできることを認知
チャレンジする若者を応援したい！という機運が高まる

今後の取り組み

いちご王国栃木の首都もおか

Living in MOKA
～「したい」が「できる」まち～



**チャレンジする若者を増やし、応援し、
ふるさと真岡市を忘れない、
真岡市に戻ってくる若者を増やす**

THANK YOU

最後までご清聴いただきありがとうございました

2026. 4. 21